

「日光地域における急性腹症発症に関する気象条件の検討」

に対するご協力をお願い

— 2006年4月1日～2020年3月31日の間に、急性腹症の治療を受けられた方へ —

研究責任者 獨協医科大学日光医療センター 外科 学内教授 山口 悟
研究分担者 獨協医科大学日光医療センター 外科 学内講師 尾形 英生

このたび当院では、上記のご病気で入院・通院されていた患者さんの診療情報を用いた下記の研究を実施いたしますので、ご協力をお願いいたします。この研究を実施することによる患者さんへの新たな負担は一切ありません。また患者さんのプライバシー保護については最善を尽くします。本研究への協力を望まれない患者さんは、研究責任者または分担者までご連絡をお願いします。

1. 研究の目的 及び 意義

急性虫垂炎や腸閉塞などの急性腹症の発症においては、患者さんの要因の他に気象条件などの変化も大きく関与することが知られています。特に、航空機における気圧の変化で腸管内ガスが膨張することにより様々な症状をきたすことが知られています。当院は栃木県日光地区の平野部から山岳部までを診療圏としており、同一日時においても気象条件は多岐にわたっていると考えます。今回、当院における急性腹症受診例を後方視的に解析することにより、発症に関与する要因を明らかにすることを目的としています。

2. 研究の方法

1) 研究対象者

2006年4月1日～2020年3月31日の間に獨協医科大学日光医療センター外科において、急性腹症の治療を受けられた方500名を研究対象とします。

2) 研究実施期間

2020年6月倫理委員会承認後 ～ 2026年3月31日

3) 研究方法

上記1)の研究対象者について、研究者が診療情報に基づいて急性腹症発症に関する分析を行い、発症の仕組みについて調べます。

4) 使用する情報

研究に使用する情報として、カルテから以下の情報を抽出し使用させていただきます。

・年齢、性別、家族歴、既往歴、診察所見、急性腹症発症の日時、発症時の宇都宮地方気象台・今市観測所・奥日光観測所における気象データ、発症時の標高、受診日時、入院の有無、診断名、重症度、治療法、血液生化学検査所見、画像検査所見

なお、あなたの個人情報には削除し、匿名化して、プライバシー保護には細心の注意を払います。

5) 情報の保存

本研究に使用した試料・情報は、研究終了後5年間保存いたします。なお、保存した試料・情報を用いて新たな研究を行う際は、外科のホームページおよび外来窓口にポスターを掲示してお知らせします。

6) 研究計画書の開示

あなたのご希望があれば、個人情報の保護や研究の独創性の確保に支障がない範囲内で、この研究計画の資料等を閲覧することができますので、お申し出ください。

7)研究成果の取扱い

この研究の成果は、あなたのデータを個人情報かわからない形にした上で、学会や論文で発表する予定ですのでご了解ください。

8)問い合わせ・連絡先

この研究にご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。また、あなたの試料・情報が研究に使用されることについてご了承いただけない場合には研究対象としないので、2021年3月31日までの間に下記にお申し出ください。この場合も診療など病院サービスにおいて患者の皆様へ不利益が生じることはありません。

研究責任者：獨協医科大学日光医療センター 外科 学内教授 山口 悟
問合せ先：獨協医科大学日光医療センター 臨床研究支援室

電話：0288-23-7000（平日：9時～17時）

FAX：0288-23-5000

郵送先：〒321-1298 栃木県日光市森友 145-1

獨協医科大学日光医療センター 臨床研究支援室